

I 事業の概要 (地域の実情含む)

八幡平市は、岩手山や十和田八幡平国立公園を有し、様々な火山型や火口湖(八幡沼が代表)・火口原湖、泥火山・火山地獄などが見られる。

また、本学区の平館地区は、平成25年9月の台風18号による豪雨などにより、浸水被害が発生している。

そこで、火山噴火や豪雨による浸水や土砂災害などについて、学区で起こりうる危険を知り、どのように避難することが安全であるか本事業を通して学ばせたい。

II 取組の概要

1 復興教育に視点をおいた「カリキュラム・マネジメント」

今年度は、校内研究主題を「郷土の未来を支える児童の育成」とし、復興教育に視点をおいたカリキュラム・マネジメントを以下の3つに重点を置いて実践した。

(1) 学校として育成を目指す資質・能力の設定

復興教育で目指す姿をもとに、教科横断的単元を計画し、そこで育成する資質・能力を明確にした。



(2) 本校が目指す児童の姿を整理

本校児童が進学する西根第一中学校の目指す生徒の姿をもとに、いわての復興教育における3つの教育的価値【いきる】【かかわる】【そなえる】をもとに、新学習指導要領における資質・能力の3つの柱で整理し、9年間の学びの中で目指す児童の姿を策定した。

級	「3つの教育的価値」についての知識・技能	「3つの教育的価値」についての思考・判断・表現	「3つの教育的価値」についての学びに向かう力	主な教育活動(防災教育)
西根第一中学校 三学年	自他がよりよく生きる大切さや実践の方法について理解し、生活の向上のための知識や技能を身につけている。	自他の関係から捉えた問題の解決について、自他のよりよい生き方と社会のよりよい生活のために考え、判断し、提案している。	自他の関係から問題を捉え、よりよい生き方のために新たな自然を見出すようとしている。	修学旅行(東京防災学習)田中実習避難所運営実習炊き出し訓練
二学年	他者がよりよく生きる大切さや実践の方法について理解し、集団の生活の向上のための知識や技能を身につけている。	他者との関わりから捉えた問題の解決について、集団のよりよい生活のために考え、判断し、実践している。	他者との関わりから問題を捉え、よりよい生き方のために集団の生活の向上を図ろうとしている。	震災学習(田老一中交流学習、被災状況説明会)DfC実習(東京編)
一学年	自己がよりよく生きる大切さや実践の方法について理解し、自己の生活の向上のための知識や技能を身につけている。	自己との関わりから捉えた問題の解決について、自己のよりよい生き方に向けて考え、判断し、実践している。	自己との関わりを通して問題を捉え、よりよい生き方のために自己の生活の向上を図ろうとしている。	防災講習会(自然災害、火山災害)地域調査DfC実習(平館・寺田地域)
平館小学校 高学年	郷土の発展と自分の夢や希望を叶えるための必要な基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。	郷土の発展、自分の夢や希望を叶えるための課題について、思考・判断し、行動しようとしている。	郷土の自然の恵みや美しさを知り、夢や希望をもち、生きる価値を見いだそうとしている。	復興教育副読本「いきる かかわる そなえる」活用被災地訪問(交流)防災マップづくり(DfC実習、まち歩き)
中学年	自分の考えや気持ちを伝えたり、行動で示したりする知識・技能を身につけている。	地域や自分、相手のために、どのようにかわればよいかを考え、判断し、行動している。	地域の人々とのつながり、友達や教師とのかわりから、自分の必要性を感じ、役立とうとしている。	復興教育副読本「いきる かかわる そなえる」活用地域マップづくり(通学路等)
低学年	自然の恩恵、家族や友達などに自分が支えられていることに気づき、大切な家族や友達がかかわるための知識・技能を身につけている。	自然の恩恵、家族や友達などに自分が支えられていることに気づき、大切な家族や友達のかかわり方について考え、判断し、行動している。	自然と親しみ、家族や友達との絆を通して、「いのち」がかけがえないものであることを実感し、大切にしようとする。	復興教育副読本「いきる かかわる そなえる」活用シートの避難訓練(学校・家庭内)

(3) PDCAサイクルによる指導計画の改善

教科横断的単元における、計画(P)に基づいた実践(D)を、評価(C)し、今後の方針(A)を検討することを実施した。

ア Plan (計画)

- 教科横断的単元の方向性の決定及び年間指導計画作成(前年度末)
- 教科横断的単元の計画(第5学年の例)



教科領域を、自然や人、地域とのつながり、資質・能力の関連性、学習経験等の関連の3点を考慮したうえで、選択し、つなぐ。

さらに、教科領域の特質を踏まえ、育成する資質・能力を明らかにする。

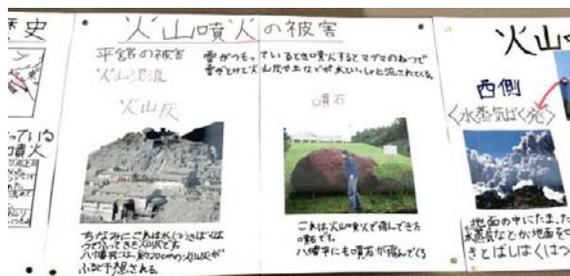


イ Do (実践)

- ・指導計画の作成

時	学習内容
1	学習課題をつくろう
2	火山噴火の仕組みとその被害の概要について知る。
3～6	岩手山が噴火した場合の危険性や被害状況について調べる。
7	正しい情報を収集・判断することについて調べ、考える。
8～11	崎山小4年生に発表するポスターを作り、中間発表する。
12～17	崎山小学校と交流し、岩手山噴火の被害や正しい情報を収集し、判断することを発表する。
18	崎山小学校の発表を聞いて、東日本大震災津波についてまとめる。
19	「海人の心」を学習し、自然とともに生きることについて考える。
20	これからの自分の生活や行動について考える。

【児童が岩手山噴火による災害についてまとめたもの】



【被災地訪問 (宮古)】



【宮古市立崎山小学校との交流】



【児童の感想】

災害は、いつ起きるかわからない。自然は怖いこともあるが、私は、美しい自然をこれからも大切にしていきたい。

ウ Check (評価)

- ・教科横断的単元の実践評価

授業中の児童の様子や感想をもとにカリマネチェックシートによる教科横断的単元の評価を行う。

カリマネチェックシート (教師用 単元分析シート)

項目	成果 (●) 及び課題 (○) となったこと
目指す子どもの姿に近づけたか	児童 ● 自他の身を守るための安全な避難の方法、避難場所について判断を下すことが難しい。 ● 正確な情報収集のための技能を身につけること 教師 ○ 単元を通して学習課題・内容を計画的に設定することで目指す児童像に近づくことができた。
各教科の資質・能力の育成について	知 ● 自然に対する畏敬の念を捉えさせること ○ 正確な情報収集のための様々な手段を知ること 思 ○ 災害時には正確な情報を入手することが重要であること 態 ● 実生活で判断の仕方や行為のあり方を具現化すること
教科横断的視点	組み合わせ方 ○ 調べ学習だけではなく道徳的な心身の育成を図ることで、今後の自らの生活や行動について深く考えることができた。
実施時期や日程	● 1学期に実施することはよい。但し、総合的な学習の時間の計画を修正する必要がある。

エ Action (今後の方針)

- ・教科横断的単元を中心に年間指導計画を再編成

改善策から、実施時期や授業時数等を再編成する。

総合的な学習の時間		総合的な学習の時間	
5月	米 田植え 【特別の教科 道徳】 ● 勤労・公共心	5月	米 田植え 【特別の教科 道徳】 ● 勤労・公共心
6月	グリーンキャンプを成功させよう 【特別の教科 道徳】 ● 感動・畏敬 ● 公正・公平 ● 親切・おもいやり ● 自然愛護	6月	グリーンキャンプを成功させよう → ネットマネー理解 【特別の教科 道徳】 ● 感動・畏敬 ● 公正・公平 ● 親切・おもいやり ● 自然愛護
7月	グリーンキャンプ報告会 【特別の教科 道徳】 ● 生命尊重 ● 責任 被災地訪問で交流しよう 【特別の教科 道徳】 ● 真理の探究	7月	被災地訪問・防災学習 【特別の教科 道徳】 ● 生命尊重 ● 責任 ● 真理の探究 → 復興副読本
8月	ネットマネー理解 【特別の教科 道徳】 ● 復興副読本 ● 権利・義務 防災学習 【特別の教科 道徳】 ● 家族愛	8月	車椅子体験学習 【特別の教科 道徳】 ● 権利・義務 防災学習 【特別の教科 道徳】 ● 家族愛
9月	米 収穫 車椅子体験学習 【特別の教科 道徳】 ● 国際理解 ● 礼儀	9月	米 収穫 防災マップづくり 【特別の教科 道徳】 ● 国際理解 ● 礼儀

○ 教科横断的単元の実践

① 2学年 生活科 図画工作科

単元名：「作って ためして おもちゃ大たんらん会をひらこう」

ねらい：自然や身近な物と親しみ、友達との絆を通して、「いのち」や「毎日の生活」がかけがえのないものであることを実感し、自分の力で自分たちの生活を豊かにしていく心情と態度を育成する。



② 4学年 社会科 特別の教科 道徳

単元名：「ふるさと再発見の旅」

ねらい：地域のよさを考え、地域を大切にしようとする心情を考
 えることにより、
 地域社会に対する
 誇りと愛情をもち、
 地域社会を大切に
 しようとする態度
 を育成する。



③ 5・6学年 総合的な学習の時間

特別の教科 道徳

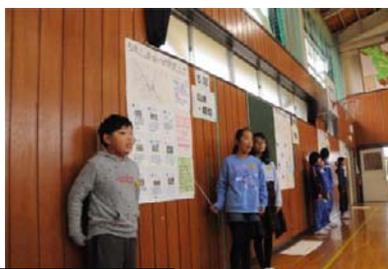
単元名：「たいらっこ防災プロジェクト
 ～災害に備え隊～」

ねらい：災害時に周囲の状況を判断し、命を守る
 ために安全な行動ができること、発災時に他の
 人の役に立とうとする態度を育成する。



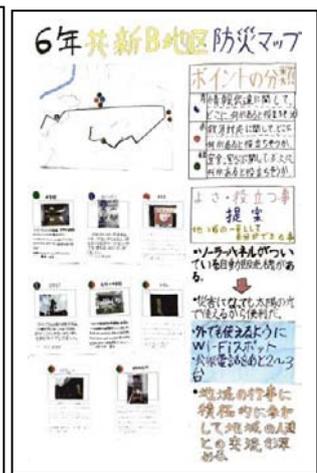
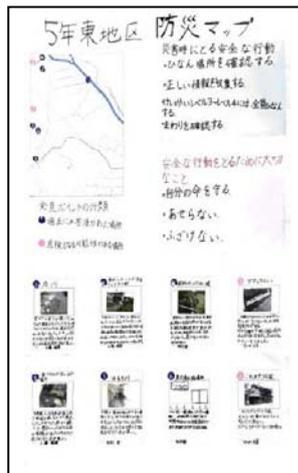
DIG 実習
 を契機
 に、「まち
 歩き」へ
 と発展。

地域の消防
 団、民生委
 員さんと一
 緒に「まち
 歩き」地域
 を調査。



防災マッ
 プをつくり、地域
 の方々に
 発表。

消防団の方
 からの、防災
 プロジェクト
 について
 講評。



上の防災マップは、地域の公民館や集会場に掲
 示し、活用。

2 地域への復興教育に関する情報の発信

地域・保護者との連携を広めるため、校報に学
 校での取組の様子を掲載し、地域及び保護者に配
 付した。



10月25日(金)、本校では八幡平市指定の学校公開研究会を開催しました。昨年度から教育研究に取りか
 かり、今年で研究の2年目になります。少し専門的になりますが、研究テーマは「郷土の未来を支える児童の育
 成～復興教育に視点をおいた『わがキュラム・マネジメント』を通して～」です。復興教育とは、東日本大震災
 を契機に始まった教育で「郷土を愛し、その復興・発展を支える人材を育成すること」をねらいとしています。
 その事を視点にし、教科横断的単元で指導すること（複数の教科などを一つ一つの単元にする）でめざす方
 をより効果的に育て、郷土の未来を支える児童を育成することを目指して一つの単元として学習を進めました。
 5・6年生は、特別の教科道徳と総合的な学習の時間をつなげてきたり、防災や身の守り方について調べたりしま
 す。そこで、平舘小学校コミュニティ・スクールの取組として、田中耕一様を通じて消防団の方や地域の方に声
 を掛けていただきました。そして、9月19日と10月11日に一緒にまち歩きをしてもらい、災害や防災に関
 わる場所や物について指導していただきました。子ども達は、調べたことを地域の資料館に発信できるよう防災マ
 ップにまとめました。ご多用のところ一緒にまち歩きをしてくださった皆様、大変有難うございました。

3 西根第一中学校区と県立平舘高校の4校連携
 各校の取組における内容や成果と課題等を共有。

情報共有等の実践

(1) 避難所開設シミュレーション

(岩手県立平舘高校)

実施要項の共有と本校から中核教員が参加

(2) 避難所運営実習 (西根第一中学校)

実習の様子について情報共有をした。

4 河川環境教育を取り入れた復興教育の推進

松尾鉦山と北上川清流化対策に関する出前授業



身近な川に硫黄が流れていて、それをきれいな水にするために日々努力していることがわかった。

5 先進校視察

視察先 いのちをつなぐ未来館
釜石市立釜石東中学校
小中合同総合避難訓練を参観。



発災時、鶴住居小学校、釜石東中学校の児童生徒がどのように避難したかを知ることができた。



校舎の中心に地域の避難路があり、その避難路を地域の住民とともに児童生徒が避難していた。

学びの質を高めることができた。

<課題>

年間を通した指導計画をさらに概観し、教科横断的単元の指導構想をもった上で、教科領域等をつないでいく。

2 地域への復興教育に関する情報の発信について

<成果>

昨年から引き続き、広報等で地域への情報発信を行っている。地域の方々からは、各種会議等で感想をいただいている。

3 西根第一中学校区と県立平館高校の4校連携について

<成果>

同一中学校区の中核教員が、各校の復興教育への取組方法について情報交流をすることで、自校の取組の見直しをすることができた。

4 河川環境教育を取り入れた復興教育の推進

<成果>

地域に環境を保全する施設があり、地域の自然とのかかわりについて学ぶよい機会となった。

5 先進校視察について

<成果>

施設見学や総合合同訓練の視察を通し、小中学校の連携の方法や地域住民との連携の方法について学ぶことができた。

6 成果指標について

昨年度11月と今年度実施した防災アンケートの年次推移から、「あなたは自然災害に遭うことがあると思うか。」に対し、全ての学年で「ある」を答えている児童の数値が12%増えている。

また、「避難所の場所を知っているか。」「災害時の身を守るための適切な行動ができるか。」について、「知っている」「行動できる」と答えている児童の数値が25%増え、さらに、「登下校時の途中で、大きな地震にあったら、その後あなたはどうしますか。」に対し、家の人と約束している所へ行ってみる。」と応えている児童の数値が20%増えた。

このことから、家庭での、防災に関する意識が高まってきていると考える。

Ⅲ 取組の成果と課題

1 復興教育に視点をおいた「カリキュラム・マネジメント」について

<成果>

本校の復興教育で「目指す児童の姿」を策定したことにより、教科横断的単元の計画や、そこで育成を目指す資質・能力の具体化を図ることができた。また、作成した指導計画に基づいた指導をすることで、学習内容や教材、学習方法などを繰り返したり、関連付けたりすることができ、より